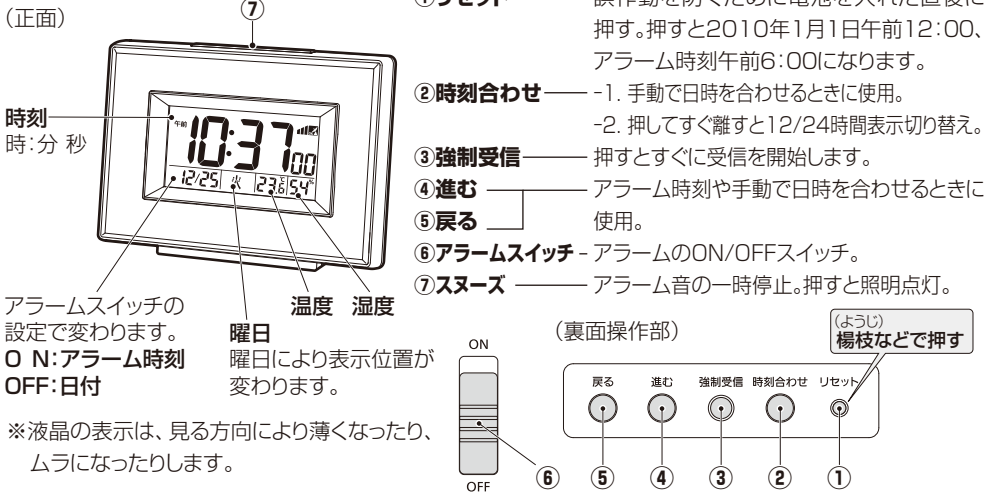


電池は付属しておりません。単3形マンガン乾電池を2個ご用意ください。

各部の名称と役割

◎図は操作説明用ですので実際の商品と異なることがあります。

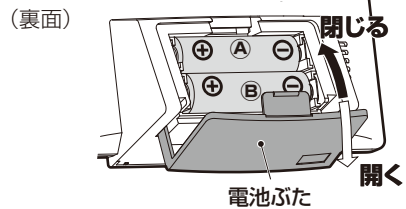


1. 使いはじめるとき 電池を入れて標準電波を受信して日時を合わせる(電池の交換)

標準電波を利用しないで、手動で時刻を合わせるときには、**「手動での時刻合わせ」**をお読みください。

◎電波を受信しやすい窓際などに置いてください。

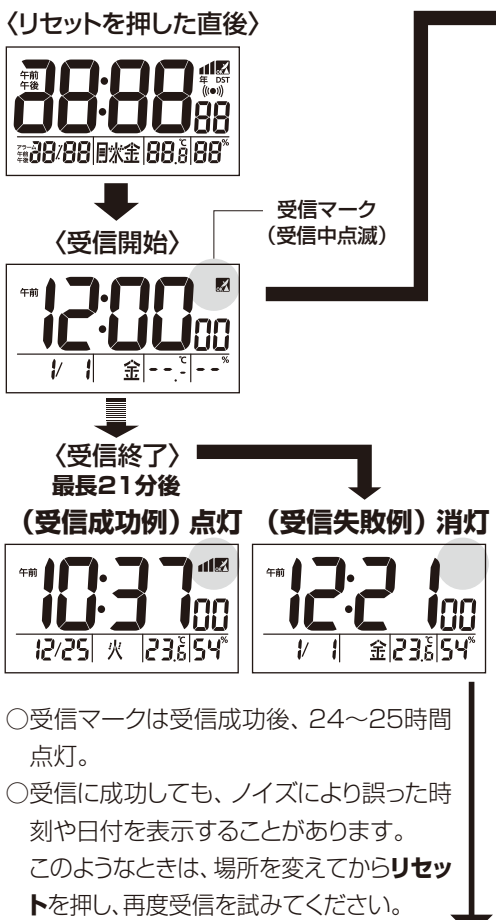
電池を入れるときは、電池ふたを開閉してください。



電池をセットしたときやリセットを押すと「ピー」と鳴ります。

- 電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて電池を入れる
- リセットを押すと受信マークが点滅し受信を開始します
◎受信中はボタンに触れないでください。
- 受信結果を確認する
受信は、最長で約21分行います。受信マークで受信結果を確認してください。
☞【受信の流れと表示】参照

【受信の流れと表示】



受信マークの変化

電波の状態により変化します。(電波サーチ機能)

受信できない | 受信しやすい

1 2 3 4

チェック!

1~2分経過しても①または②の受信状態が続く場合は受信できません。場所を変えて**リセット**を押し、再度受信を開始させてください。

電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った日時を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- 地下、ビルの中、ビルの谷間
- 高圧線、テレビ塔、電車の架線近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く

電波受信中のボタン操作について

電波の受信中に**進む**または**戻る**を押すか、**時刻合わせ**を約2秒間押し続けると、受信マークが消灯し受信を中止します。

標準電波を受信できない場合

- 朝までそのままにしておく
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくことで受信できる可能性が高くなります。

- 場所を変える／受信をやり直す
電波の受信しやすい窓ぎわで取扱説明書の日本地図を参考にして、電波の送信所に時計の正面または裏面が向くように置き直し、**リセット**を押して結果を確認します。

手動での時刻合わせ …… 電波が受信できないときや任意の日時に合わせるとき

操作例に従って、西暦年、月、日、時刻(時、分)の順に設定してください。

年月日、時刻(時、分)でのボタン操作

点滅している数値を**進む**または**戻る**で合わせてから**時刻合わせ**を押すと数値を確定して次に進みます。

ボタン操作 押してすぐ離す 押し続ける

進む 1つ進む 早送り

戻る 1つ戻る 早戻し



- 約30秒間ボタン操作を中断すると、表示されている内容で設定が変わります。
- アラーム時刻またはアラームマークが点滅しているときは、日時の設定はできません。
- 標準電波を受信できないときの時間精度は、クォーツ精度になります。
- 電波受信機能がONのときは、受信に成功すると日時を自動修正します。

静電気による誤作動について

静電気の影響により、表示が欠けたりして正常に機能しなくなることがあります。このようなときは**リセット**を押してください。

2. アラーム機能を使う

-1. アラーム時刻の設定

- ①**アラームスイッチ**をOFFにする
アラームが鳴っているときやスヌーズ機能を使用しているときは設定できません。
- ②**進む**または**戻る**を押してすぐ離す
「アラーム」が点灯して、アラーム時刻が点滅。
- ③**進む**または**戻る**でアラーム時刻を合わせる
- ④約5秒間ボタン操作をしないと設定を終わる

ボタン操作 押してすぐ離す 押し続ける

進む 1つ進む 早送り

戻る 1つ戻る 早戻し



午前/午後の表示に注意。
表示されていない場合は24時間表示です。

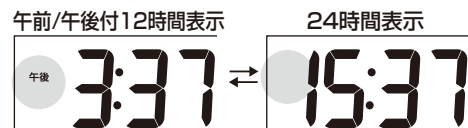
-2. アラームのON/OFF設定

- ON : 設定時刻にアラームが鳴る。
アラーム時刻とアラームマークを表示
- OFF: アラームを止める、鳴らさない。
日付を表示



3. 時刻表示の切り替え

時刻合わせを押してすぐに離すと12時間表示と24時間表示を切り替えることができます。



- 次の状態のときは、表示の切り替えが出来ません。
- 電波の受信中
 - アラーム状態
 - アラーム時刻、日時の設定中。
- *アラーム状態とは、アラームが鳴っているまたはスヌーズ機能を使用している状態。

4. 温度・湿度表示

本製品は、一般的な家庭やオフィスなどの室内用です。

- センサーが時計内部にあるため、時計周囲の温度・湿度を反映するまでには時間がかかります。
- 直射日光の当たる場所や冷暖房器具、加湿器、除湿器などの近く、温室、サウナ、浴室、冷蔵庫、車の中では使用しないでください。

○測定する高さによっても、温湿度に違いが出ることがあります。

※厳密な温湿度管理をする用途には適していません。また、温湿度の証明や商取引には使用できません。

測定範囲を超えたときの表示とその意味

- 温度「HH.H」50℃を超える高温「LLL」-9.9℃未満の低温
- 湿度「HH」95%を超える多湿 「LL」20%未満 「--」測定不可
- *湿度は温度が5~50℃のときに測定可能

電池の交換について 早めに交換して液漏れを防ぎましょう

注意 電池からの液漏れにより、時計の修理や家具などの修繕に費用が発生することがあります。電池の液漏れや発熱、破裂を防ぐために、次のことをお守りください。

- 液晶表示が薄くなった、表示が欠けた、アラーム音が鳴らなくなったときは、速やかに指定の電池に交換するか、電池を取り出す。
 - 古い電池と新しい電池、種類の異なる電池を混ぜて使用しない。
 - 動いていても1年に1回定期的に交換する。
 - 電池の⊕⊖を逆に入れない。
- ※電池は、同じメーカーの同じ種類のものを使用することをお勧めいたします。

電波受信機能のON/OFF切り替え操作

- 受信機能 OFF (標準電波で日時を修正しない) 受信機能 ON (有効にして受信を開始する)
- リセットをおよそ1秒間隔で3回押してください。
- 戻るを押しながら、リセットを押して離すと「ピー」と鳴ってから押してください。
- OFFになると「ピー」と鳴りません。
- 日時は手動で合わせてください。
- 標準電波を定期的に受信して標準時刻に合わせます。

※操作のタイミングによっては、ON/OFFが切り替わらないことがあります。このようなときには操作を繰り返してください。

※回路内に電荷がなくなった後に、電池を入れると受信機能はONになります。

強制受信とリセット

強制受信

場所を移動したときなどに、受信を試みたいときに使います。受信に失敗しても日時は継続して表示します。

次のようなときは受信を開始しません。

- アラーム状態のとき
- 手動でアラーム時刻または日時を設定中
- 受信機能がOFFになっているとき

リセット

電池を入れた直後や静電気などにより誤作動したときに**リセット**を押します。

リセット直後は、2010年1月1日午前12:00、アラーム時刻は午前6:00に初期化されます。受信機能がONのときは、受信を開始します。